（共同リリース）

2026年10月30日
日本航空株式会社
株式会社豊田自動織機

JALと豊田自動織機、羽田空港における「自動運転レベル4」の走行ルート拡大に向けた検証を開始



日本航空株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長グループCEO：鳥取三津子、以下「JAL」）と株式会社豊田自動織機（本社：愛知県刈谷市、代表取締役社長：伊藤浩一、以下「豊田自動織機」）は、羽田空港における「自動運転レベル4（特定条件下での完全無人運転）(*1)」の運用拡大に向け、2026年11月より豊田自動織機製の自動運転トーイングトラクターを使用した検証を開始します。

JALは2025年12月15日より、国土交通省航空局が整備する信号設備やカメラといった共通インフラを活用し、羽田空港において自動運転レベル4に対応したトーイングトラクターの実用化を開始(*2)しています。今回検証を開始する走行ルートは、トンネル区間を含むなど、現行ルートよりも難易度が高く、走行環境や運用条件が大きく異なります。

本検証では、羽田空港で既に実績を持つ豊田自動織機の知見を活用し、こうした特有の条件下において、自動運転レベル4での搬送業務に必要な課題や、航空局が新たに整備する共通インフラとの連携について精査してまいります。

JALと豊田自動織機は、本検証を通してグランドハンドリング業務の効率化・省人化と、電動車両の活用によるさらなる環境負荷の低減を目指します。また羽田空港での自動運転トーイングトラクターの適用範囲拡大を通じて、既に実用化している自動運転技術を異なる走行環境や運用条件へ展開するだけでなく、全国の空港への展開も見据えてまいります。

(*1)特定条件下における完全自動運転。特定条件下においてシステムが全ての運転タスクを実施。
(*2)2025年12月15日付プレスリリース｜国内初、東京（羽田・成田）2空港同時に「自動運転レベル4」実用化を開始
https://press.jal.co.jp/ja/release/202512/009185.html

以上